

構想テーマ 高大連携の国際化を通じたSDGsグローバル人材の育成

目的と設定目標：本事業では、SDGs (持続可能な開発目標) が掲げるテーマを中心課題に位置づけ、新しい価値を創造し、自律した自覚を持って世界の架け橋となることができるグローバル人材の育成を目指し、新しい高大接続モデルを開発、検証する。拠点校は「SDGs Youth Summit」を開催する。高大連携を国際化させ、「文理融合」の高度で先進的な教育内容の開発、「二重単位履修科目の設定と実施」、「系統的で深まりのある課題研究」を行う。関連して、「高校版サテライトオフィスの整備」「ICT利活用」「国際附属高校ネットワークの構築」「外国人教育実習生の受け入れ」等により常時的な国際協力の体制と環境を整備し、海外留学等を促進する。

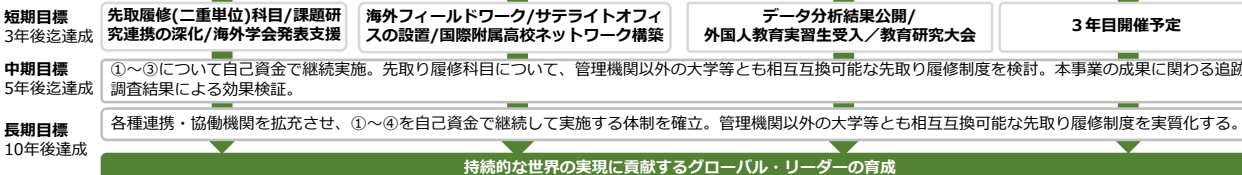
- 育成する人材像**
- ①社会的課題に興味・関心を持ち、課題解決に粘り強く挑戦できる人材
 - ②論理的思考のためのツールを習得し、根拠に基づいて判断できる人材
 - ③ICTを適切に利活用し、考えや価値を統合・創出・発信できる人材
 - ④多様な人と積極的に交流し、他者への共感を自己形成に役立てる人材
 - ⑤生涯学び続け、平和で包摂的な社会構築へ向けた協働を先導できる人材

ALネットワークの目的と役割

これまで特色ある高大連携モデルの開発に取り組んできたが、本事業でその組織を国際化して拡充し、海外・国内連携校、国際機関、地域企業・団体等からなるALネットワークを形成。総合学科の特性を活かし、SDGsをテーマに、高度で多様な学びをグローバルな文脈で高校生に提供する教育プログラムを開発・検証。

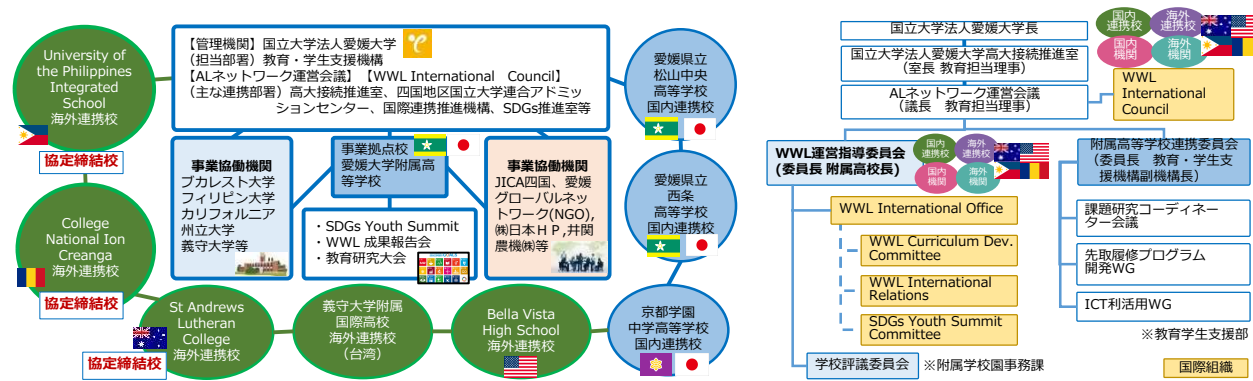
グローバル・リーダー育成のためのALネットワークにおける4事業部門

- 1 カリキュラム開発・先取り履修等の接続
- 2 海外派遣・留学生の受入、海外提携校との連携
- 3 情報交換、比較研究・効果検証、教員養成・研修
- 4 SDGs Youth Summit



ALネットワークの運営組織とその情報共有体制

34カ国142の大学等と国際交流協定を結ぶ愛媛大学が管理機関となり、拠点校である愛媛大学附属高等学校と共に高大接続の点から国際ALネットワークを運営。海外教育機関や企業等との連携・交流を促進する情報共有体制を整備し、イノベティブなグローバル人材の育成のため、高度で国際通用性のある教育を展開し、愛媛県内に留まらない広域における中等教育の国際拠点を形成。

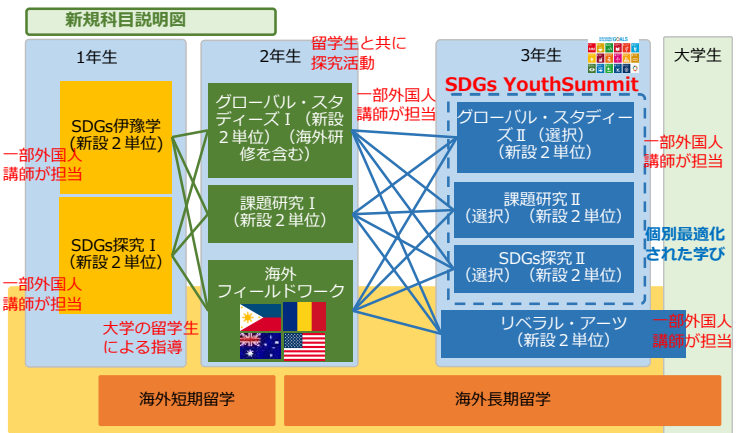


財政支援等

- 自己負担額の支出計画**
管理機関に特命教員 (再雇用の外国人教員等を予定) を配置 (カリキュラム・アドバイザー)。ALTの増員。学内外の競争的資金への応募。
- 人的または財政的な支援、研修やセミナー等の実施に向けた計画**
SDGs伊豫学・課題研究 I・グローバルスタディーズ I・リベラル・アーツ等に大学教員 (外国人教員を含む) や留学生が参画。留学生や大学院生を学習支援アシスタントとする体制の整備。SDGsセミナー・シンポジウムや教職員の能力開発: FD/SDへの参加。教科教育研究会の開催。
- 支援期間終了後の事業の継続的な実施に向けた計画**
外部資金へ積極的に応募し、継続実施を予定。海外フィールドワークやサービスラーニングなどに関連して、企業等のスポンサー制度の検討。愛媛大学基金の活用を検討。※クラウドファンディング達成経験有。

研究開発・実践

- 1) テーマとして設定するグローバルな社会課題**
SDGsに関する活動を推進するために、SDGs推進室を設置。愛媛大学と拠点校が連携しグローバルな社会課題として、SDGsの達成を設定。特に目標9, 12, 13, 16, 17, 5, 4を想定。
- 2) 新たな教科・科目の設定及び短期・長期留学や海外研修・フィールドワークの構造化**
5年間のSGH期間中に開発した科目を、SDGsとグローバル人材育成の観点から内容の精選、拡充、系統化。3年次は自分の興味関心や特性に応じて高度な学びを個別最適化して深めることができるよう3つの選択科目を設定。日本人生徒と留学生が協働して体験的に学ぶ。



- 3) 大学教育の先取り履修**
3年次に全生徒を対象とする設定科目「リベラル・アーツ」にて多様な分野の大学講義科目を「先取り履修 (「二重単位取得」可能科目) 」 (7科目程度を予定)。英語以外の外国語について大学での先取り履修を検討。e-learningや海外大学等との二重単位についても検討。
- 4) パラソよく学ぶ教育課程の編成**
総合学科であるため文理分断することなくクラス編成され、生徒が自らの興味・関心・特性に応じて科目履修することが可能。4つの系列を越えて授業を選択することも可能。
- 5) 工夫された学習活動**
①異学年生徒による協働学習 ②外国語での学習成果発信 ③海外フィールドワークの高大連携 ④留学生との学習交流 ⑤外国人教育実習生の受け入れ
- 6) より高度な内容を学びたい高校生のための拠点校の条件整備**
①新規科目における大学教員・外国人講師・留学生の参画 ②海外フィールドワークに係る高大連携の国際化 ③課題研究の高大連携の深化 ④大学セミナーや特別講座の開放 ※校舎機能改善改修
- 7) 留学生の受け入れ及び体制の整備**
拠点校内に海外協働校等のサテライトオフィスを設置予定。常時的な留学生や教職員の受入体制を整備。日本語教員資格を持つ教諭が在籍。愛媛大学内の日本語学習支援ボランティア組織 (J-Support) や国際コーディネーターによる活動支援。e-learning教材の共有。
令和2年度からアジア高校生架け橋プロジェクトによる留学生を受け入れる。

実施体制の整備

- 1) 管理機関によるALネットワークの整備と管理機関の長や拠点校の校長の役割**
教育・学生支援機構の機構長 (教員担当理事) を委員長とする「ALネットワーク運営会議」を設置。委員長は、附属学校担当副学長、国際連携推進機構長、附属高等学校長とマネジメント組織を形成し、全学的な協力の要請と具現化を牽引。拠点校の校長は「WWL運営指導委員会」の長として、校内体制の整備、高校生と留学生、大学教員、国際機関等の職員、企業の専門家等を有機的に機能的に紡ぎ、教育課程の高度化と国際化を主導。
- 2) 効果検証及び卒業生を追跡調査する仕組みの構築**
「WWL International Council」 (国際組織) を管理機関内に設置。専門的見地から多面的にネットワーク運営に係る評価・指導・助言。長期的な追跡も含めた効果検証を実施。「WWL運営指導委員会」を拠点校内に設置。本事業の計画、進捗状況、成果、評価を管理。拠点校教員、生徒、保護者による評価に加え、国内/海外連携校の教員、生徒による評価、協働機関等を含めた広くステイクホルダーによる評価を実施。OB/OGの組織化。